

学校概要

| | | | | |
|----------------------|-----------|---------------|----------|--------------|
| 創立 44 周年 | 学校長 朝日 豊彦 | 副校長 水上 文 | 学期 2 学期制 | 児童・生徒数 648 人 |
| 学級数 一般級: 19 個別支援級: 2 | | 主な関係校: 青葉台中学校 | | |

学校教育目標

- 豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健康なえのきの子
- 自ら学び、活用・探求する力をもった子どもを育てます。(知)
 - 自分らしさを生かし、他の人との違いを認め合う子どもを育てます。(徳)
 - 健康や安全の大切さを認識し、生き生きと活動する子どもを育てます。(体)
 - 人やものと豊かにかかわり合い、共に生きる子どもを育てます。(公)
 - コミュニケーションを通して視野を広げ、社会の変化に対応できる子どもを育てます。(開)

学校の特徴

- 東急田園都市線の青葉台駅近く、一戸建てやマンションが混在した閑静な住宅地と一部商業地域を含む学区にある。保護者の中には、榎が丘小学校出身者も多い。
- 保護者地域は、協力的で、PTA活動も意欲的である。
- ベテランは少なくなってきたが、意欲的に授業を進める職員が育ってきている。
- 縦割り活動の継続で、メンバーシップは育ってきているが、自己有用感を育てたい。
- 基礎基本は、押さえられている子どもは多いが、意欲をより引き出し、主体的な姿勢へとつなげていく必要がある。

学校経営中期取組目標

- 豊かなかかわり合いを大切に、一人ひとりが認められ磨かれる学校にします。
- ・意欲的にしっかり学習に取り組み、得意分野を伸ばします。
- ・かかわり合いながら自己の良さや他者の良さに気がつき、認め合い、多様性の中で高め合うようにします。
- ・居心地の良い集団の中で、思いやりや自己有用感が持てるようにします。
- ・保護者地域との連携を深め、学校・家庭・地域協働教育を進めます。

小中一貫教育の取組

| | | |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 青葉台中 | ブロック | 青葉台中学校、青葉台小学校、榎が丘小学校 |
| 9年間で育てる子ども像 | ・心身ともに健康で自他の生命を大切にできる子 ・互いを認め合い、自己を大切にできる子 ・自ら進んで学び、またともに学び合える子 ・地域を大切にし、共生できる子 | |
| 自校の具体的取組 | ・9年間で、具体的に目指す姿を3項で共通理解を持つ。・児童の特性や9年間を意識した指導内容や学習方法を考え、授業の工夫・改善を進める。・特別活動等で中学校と連携、縦割りなどの異年齢集団の活動を取り入れ、発達段階に応じたメンバーシップを育てる。・中学校ブロック学校運営協議会を通して、保護者、地域との連携のみならず、小中の連携にもつなげる。 | |

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 確かな学力 | 意欲を高める工夫をし、主体的に学習を進め学習したことを活用し探求する姿勢を育てる。学び方を改善し、総合的に理解を深めさせる。自信を得意分野につな | ①高学年ブロックでの教科担任制を取り入れ、専門性の高い授業により児童が得意分野をもてるようにする。②総合的な学習を重点研究として取り組む。③ニコフェスの進め方を改善して取り組む。④体験的な学習や問題解決的な学習の推進と共に言語活動の充実を図る。⑤授業の中で「見通し」と「振り返り」を大切に、主体的な姿勢を育てる。 |
| 豊かな心 | いじめを防止する取り組みを進める共に、親和的な集団を育てる。自他を大切にする気持ちを育てると共に自己有用感を持たせる。多様性の中で育てる。 | ①全学年が自己有用感を得られる年間を通じたたてわり活動や特別活動の充実。②教育活動の中で、認め場面を増やし、親和的な集団の育成を図る。③ルールやきまりを守ることの指導と相手を意識した挨拶運動の推進。④道徳科の評価について研究をする。④ふれあい音楽会や鑑賞教室など、芸術文化を感動体験する場の設定をする。 |
| 健やかな体 | 運動する楽しさを実感し、進んで運動に取り組む子供が増えるように、体力向上の取組の継続推進。保健と食育を関連させて取り組む。 | ①ながわ大会、世界1周マラソン、3UPランドは、内容の改善を図りながら継続する。②体力が向上してきたことを実感させながら、運動することが楽しいという気持ちを育てる。一人一人が自信が持てるような体育の授業につなげる。③栄養士、養護教諭と連携した食育の授業を進める。 |
| コミュニケーション能力の育成 | かかわり合いを持つことでその楽しさや相手の良さに気づく。メンバーシップを育て、自己有用感を育てる。 | ①授業を通した人との関わり、地域との関わりなど、積極的に関わろうとする姿勢を育てる。②様々なコミュニケーションの場を設定し、社会への視点を広げる。③たてわり活動、ニコフェス活動の改善を考える。また、取組の中で、異学年とのコミュニケーション能力の育成を図る。 |
| 特別支援教育 | 配慮を必要とする児童の困り感を職員全体で把握し、状況に応じた学級、学年経営や指導。児童に対するよりよい支援体制の充実を図る。 | ①児童理解、児童指導力の向上を目指し、研修の場を設定する。②学級集団を把握し、個別支援計画による個に応じた指導。③学校カウンセラー、療育センターあおばとの連携。(コンサルテーション、研修、面談等)④特別支援コーディネーターを中心としたチームとしての取組の推進。 |
| 地域連携 | 9年間を見据えた指導を考え、学校、保護者、地域が協働していくことを推進する。地域、保護者の力を教育活動に生かす。 | ①学校運営協議会を通じた評価を受ける。また、地域保護者との連携を進める。(小中、小中の連携にもつなげる。)②授業、特別活動に地域の教育力を活用する。③PTA行事、地域行事への参画。④民生委員主任児童委員との連携を図る。(授業参観、懇談会など) |
| 安全管理 | 危機管理およびその対策について意識を高める。災害に対する避難方法、経路等の確認をする。地域、保護者とも連携して、安全教育を進める。 | ①年度初めに防犯・防災対応について周知を図る。また、校外学習等での緊急時の対応も考えておく。②安全管理については、中学校ブロックでも協議の場を持つ。③災害が予想されるときには、メール配信やプリントで注意喚起をする。④健康面でも、メール配信を活用する。(病気やケガの予防、流行の防止、健康の増進など) |
| 人材育成・組織運営 | 分掌や取組の引き継ぎを計画的に行うと共に学校評価を元に組織の改善を図る。ベテランに頼らず主体的に進める人材の育成。 | ①ミドルリーダーが、学校運営の推進役となる。また、経験の浅い教職員が成長するためのメンターチーム等の活動の推進役となる。②市費移管に伴う正確な事務処理、個人情報の確実な取り扱いについて、研修をし、徹底をはかる。③チームで取り組む効果を考えながら、指導方法の改善を図る。 |
| いじめの対応 | 一人一人に居場所があり、親和的な集団を育てる。いじめの早期発見に努めると共に、迅速、丁寧、真摯な対応をする。 | ①だれもが安心して豊かに生活できる集団を育てる。②生活アンケートやいじめアンケートを採り実態把握に努める。③YPアセスメントを実施し未然防止につなげる。④学校コンサルテーションや研修を通して、児童理解力を高める。⑤いじめ防止対策委員会を設置し、迅速、丁寧、真摯な対応を検討し実行する。 |